



コスモスだより

【ニューストピックス】

緩和ケアを ご存知ですか？

【お知らせ】

看護局長就任のご挨拶

消防長から感謝状が贈呈されました

「第19回病院祭」開催日程のお知らせ

第51回 市民公開講座のお知らせ

第5回 こすもす懇話会のご報告

「地域医療機関様アンケート」結果報告

病院の理念 基本方針

地域住民を守る良質な医療の提供

1. 医療を通じ患者さんの喜びが自らの喜びになるような職業人をめざします。
2. 常に技術の研鑽に努め、高度な医療の提供により、病気の早期発見・治療の充実をめざします。
3. 患者さんの治療には、各々の職務を結集したチーム医療をめざします。
4. 地域の医療機関と連携を密にし、信頼される中核病院として急性期医療をめざします。

緩和ケアをご存知ですか？

がんと診断されてから、どのような治療・療養を行いどのように生きるかは、ご本人だけでなくご家族にとっても、とても大切な選択です。がん医療には、がん治療だけでなく「がんによるつらさ」を和らげるための医療『緩和ケア』があります。しかし、『緩和ケア』の十分な認知はされておらず、終末期や看取りのケアと考えている方も多いのではないのでしょうか。

2人に1人が「がん」になり、3人に1人が「がん」で死亡する現在、ご自身のためにご家族のために、『緩和ケア』を是非知ってください。

当院は、『大阪府がん診療拠点病院』として高度ながん治療を実施し、「緩和ケア」もその一環として取り組んできました。5月からは、泉州地域では数少ない『緩和ケア病棟』を開設し、包括的ながん医療をご提供する体制を整えています。更に9月からは、「緩和ケア外来」を通じて、地域の医療機関様からの患者さんの受け入れも開始しています。

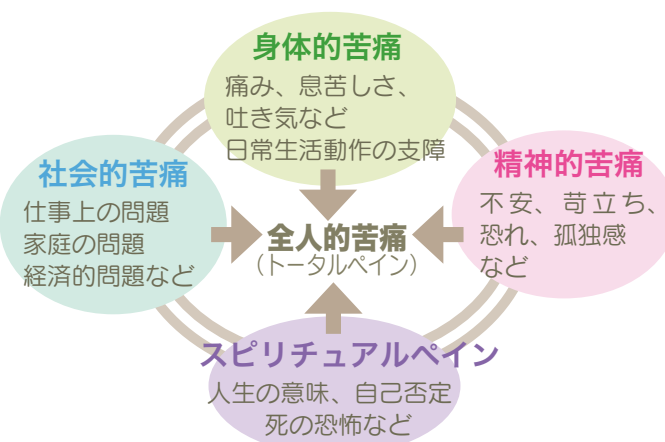
■ 緩和ケアについて

「痛み」や「つらさ」を仕方がないと抱え込まず、主治医や看護師に伝えてください。そこから『緩和ケア』がはじまります。

緩和ケアの役割と考え方

■ がんによる様々な「つらい」を和らげ、自分らしく過ごすための支援を行います

- がん患者さんの苦痛を全人的に捉えながら、身体的苦痛だけでなく精神的苦痛など、様々な苦痛を緩和する。
- 生命を尊重し、死を早めることも、遅らせることもしない。
- 生活の質（クオリティ オブ ライフ:QOL）を向上させ、前向きに生きる力や意欲を支える。
- 大切な時間を、患者さんが自分らしく過ごせるように支える。
- 患者さんの治療時から死別後もご家族を支える。



緩和ケアの開始時期

■ 「つらさ」を感じた時から『緩和ケア』は始まります

従来の緩和ケアは、末期がんの方を対象に痛みを緩和するためのケアを指していました。しかし、がんによる「つらさ」は、がんと診断された時から始まっています。痛みだけでなく不安や不眠なども含め、「つらさ」を和らげることに視点を置いた『緩和ケア』を受けることで、穏やかに日々を暮らすことができたり、より前向きに治療を行えるようになります。

そのため現在では、『緩和ケア』をがん医療の重要な要素と捉え、がん治療の初期段階から、外科手術、化学療法、放射線療法などと連携し『緩和ケア』を行う包括的ながん医療へと変化しています。

《従来のがん医療》

がんの治療 緩和ケア

《包括的ながん医療》

がんの治療 緩和ケア

がんの治療 緩和ケア

緩和ケアの診療体制

■ 患者さんの様々な状況やご希望に合わせて『緩和ケア』を受けられます

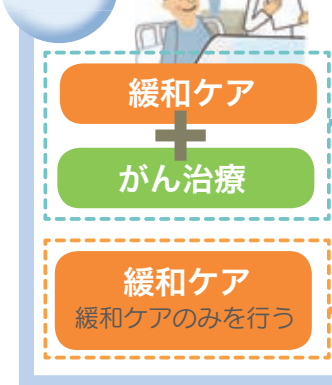
『緩和ケア』は、がんの治療状況や入院・外来など、患者さんの状況に合わせて受けることができます。

入院の場合、がんの治療中であれば【緩和ケアチーム】を中心としたケアを行い、緩和ケアのみを行う場合には、緩和ケアの専門病棟【緩和ケア病棟】にて緩和ケア病棟の専門スタッフによるケアを行います。

通院中の患者さんの場合は【緩和ケア外来】にて診療を受けることができます。また【緩和ケア外来】は、当院以外の医療施設でがんの診療を受けていた方を【緩和ケア病棟】に受け入れる際の窓口の役割も担っています。



入院



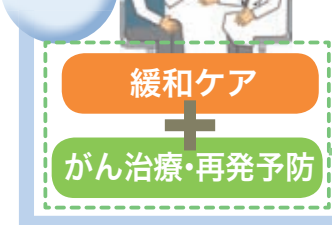
【緩和ケアチーム】

がんによる様々な苦痛を緩和するため、多くの専門分野のスタッフにより構成されたチームです。がん治療の初期段階から、病棟に訪問して診察したりお話を伺いながら、がん治療の担当医や看護師と協力して緩和ケアを行います。また、週に一度のカンファレンス（症例検討会）を実施し、緩和ケアチームを中心に病棟スタッフを含めたチームでのケアを行っています。

【緩和ケア病棟】

緩和ケアのみを行う、緩和ケアのための専門病棟です。緩和病棟の専任スタッフの他、がん治療の担当医や看護師、緩和ケアチームと協力しながら、患者さんご家族が「自分らしく」過ごしていただくためのケアを行っています。

通院



【緩和ケア外来】

緩和ケアの専門知識を持つ担当医と、緩和ケアやがんによる疼痛管理の専門知識を持つ認定看護師による、緩和ケアの専門外来です。通院でがん治療や再発予防の治療を受けている方、退院後の疼痛管理などを必要とされる方を対象に診療しています。

■ 緩和ケア病棟について

患者さんが「自分らしく」ご家族が共にくつろいで過ごしていただくために・・・専門病棟だからこそその手厚い『緩和ケア』をご提供しています。

緩和ケア病棟入棟の考え方

- 病状の進行による身体的・精神的苦痛に対して、症状緩和を目的とした医療を受ける。
- 緩和ケア病棟へ入棟中は、化学療法や放射線療法などがんそのものを治すための治療は行わない。
- 患者さんご本人が病名・病状を理解しており、緩和ケアについての意見や希望を伝達できること。
- 延命処置は希望しない。
- 苦痛症状が緩和された場合や治療の再開をご希望された場合、その他患者さんご本人が希望された場合には退院していただく。

患者さんの 89 歳の誕生日。ご家族と病棟スタッフが一緒にお祝いをしました。



「ハッピーバースデー」の合唱に、患者さんが涙ぐまれる場面も。

デイルームの飾付けも、飾りのケーキも、全て病棟スタッフの手作り。

ご家族が用意された大好きなスイカをファミリーキッチンで切り分けて・・・「先生が今日はスイカ食べても良いよって」

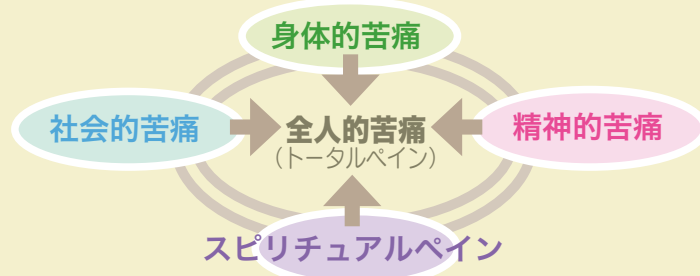
緩和ケア病棟での「コマ」



「ハッピーバースデー」の合唱に、患者さんが涙ぐまれる場面も。



がんによる「痛み」「つらさ」トータルペインの緩和をチームケアでサポート



同じ痛みでも、不安や苛立ちなどが強ければ痛みもより強く感じられ、安らぎがあると和らげられる・・・という経験はありませんか？「痛み」「つらさ」は、身体的な原因だけでなく、その方を取り巻く様々な側面が関連し影響しあっています。がんが診断されてから、その内容や配分は違えど、患者さんやご家族は様々な側面での「痛み」や「つらさ」を抱えられることでしょう。こうした「痛み」や「つらさ」の原因や問題点を解決したり受け入れる手助けをすることが『緩和ケア』です。そのため、「痛み」「つらさ」を身体的苦痛だけでなく全人的苦痛（トータルペイン）と捉え、様々な観点からサポートすることに重点を置いています。『緩和ケア』では、医師や看護師だけでなく、多職種のスタッフによるチームケアで多方面からサポートしています。

医師



緩和ケア担当医
院長 吉原 治正

緩和ケアは、「自分らしく生きる」ための前向きな医療です。
人は病になります、誰もが最期を迎えます。病と闘うために、最期まで自分らしく生きることを支えるために緩和ケアがあります。緩和ケアは、終末期のケアでも後ろ向きな選択でもありません。まずは緩和ケアには様々な受け方があることを知ってください。そして、あなたの痛みやつらさを我慢せず、私達に伝えてください。

臨床心理士



臨床心理士
近藤 麻耶

患者さん・ご家族自身が方向を見つけるためのお手伝い。
心に溜まっている色々なお話を聴き、患者さん・ご家族の人生に寄り添いながら、状況に応じた心の整理をお手伝いしています。上手に話せないからといった心配はいりません。思いが言葉にならないときは、無理に話さず思いと一緒に感じる時間を大切にしています。ゆっくりと共に考えていきましょう。

メディカルソーシャルワーカー



メディカルソーシャルワーカー
杉琴 さやこ・栗尾 雅子

抱え込まずに、まずご相談を！
病気になることで、これまで埋もれていた様々な問題が表出していきます。お金のこと、仕事のこと、介護のこと、家族関係・・・。そういった様々な心理社会的な問題を、患者さん、ご家族と一緒に考え、整理し、解決を目指します。
「こんなこと聞いていいの？」と思われるようなことも、一人で抱え込まず、遠慮なく声をかけてください。

主治医と緩和ケア担当医が協力してサポート

がんの治療中は、主治医の依頼のもと緩和ケア担当医が、【緩和ケアチーム】として病棟回診と緩和のための治療を行っています。週1回のカンファレンスでは、各科の医師が協力して緩和ケアを行っています。

心の専門的医療ケアの提供

適応障害・うつ病、せん妄など、がん患者さんに多い疾患における不安や不眠、気持ちの落ち込みを軽減するための薬物療法など、心の専門医として診療を行います。

カウンセリングで心のケア

がんの疑い、検査、診断、治療の経過、看取り、その経緯の中で、患者さんやご家族は多くの不安や戸惑いを感じられます。ゆっくりとお話を伺い、気持ちの整理のお手伝いをしながら、心理的なサポートを行います。

社会福祉の立場から、様々な不安をサポート

がん治療には、医療費や制度の利用、入退院後の生活など、心理的・社会的・経済的不安があります。こうした、治療や療養の妨げになる生活上の不安や心配などの問題を一緒に考え、解決への援助をすることで、安定した療養生活をサポートしています。

「その人らしく」を実現するための緩和ケア

専門知識を持つ『緩和ケア認定看護師』『がん性疼痛看護認定看護師』を中心に、各病棟にも『緩和ケア』の窓口となるリンクナースを配置。患者さんに寄り添い、「今どのような援助が必要か」を把握しながら緩和ケアを行っています。

食生活に関わる様々な問題に対応

「食べたい」「食べなければいけない」のに食べられないことは大きな苦痛です。栄養面はもちろん、調理方法や食べやすさの工夫など、「食べたい」という気持ちに応えるご提案をしています。

薬についての助言や指導

患者さんに安心して薬をご使用いただくため、正しい使用方法や副作用などの説明や情報提供を行います。また処方に関しても、患者さんの症状に適した薬剤の選択や安全性などの助言を行っています。

身体の機能を最大限に活用するための訓練

(理学療法士・作業療法士)

がんの発症や治療に伴う「体力低下」「運動麻痺」「呼吸困難」「骨折の危険性」などで生活に支障をきたしている患者さんに対し、基本的動作能力や日常生活動作能力の回復や維持、障害の悪化の予防などを目的にリハビリを行います。

看護師



緩和ケア認定看護師
島 美由紀・白石 裕実

「その人の大切にしたいもの」を尊重しながら

緩和ケアでは、がんが診断された時から治療の時期、がんとともに歩まれている間もずっと、患者さんがその人らしく生きられるように痛みをはじめとする心身の苦痛を積極的に緩和し、その人の大切にしたいものを尊重しながら、患者さんやご家族を支えていくことを大切にしています。「治療が上手く進んでいきますように」「日々穏やかに心地よく過ごせますように」そんな思いで患者さんやご家族とかわっています。



がん性疼痛看護認定看護師
近藤 麻美

「緩和ケア病棟」は絆の場

緩和ケア病棟では、患者さん・ご家族の辛さをできるだけ軽減し、心地よい時間を提供できることを目標にしています。面会時間は制限がなく、ゆっくりした時間の中で、ご家族と共に、患者さんのために何が最善なことなのか、何をしてあげられるのか、共に寄り添います。緩和ケア病棟は、絆を深め、患者さん、ご家族が共に充実した時間を過ごしていただける場でありたいと思っています。

リハビリ専門職

「緩和的リハビリ」にも、できるサポートがたくさんあります

リハビリには、障害の予防・回復・維持など、がんが診断された早期から、状況に合わせた役割があります。積極的治療を行わなくなっても、リハビリは終わりません。患者さんの要望を尊重しながら、できる限り最高の日常生活動作を実現する。緩和的リハビリの役割「最期まで自分らしく」の実現のため、患者さんの今を大切に頑張りたいと思います。

＝ 看護局長就任のご挨拶 ＝



看護局長
長尾 清美

今年度看護の現場に復帰しました。これまで6年間は他の病院に出向した後、地域医療連携室を担当しておりました。

当院の臨床現場を離れて見えてきたことは医療社会問題でした。看護師によくあることです。臨床にどっぷり浸かっていると、看護関係の問題に偏在し全体が見えていないということです。とくに地域医療連携室を担当することで南泉州地域医療再生事業に加わり、地域の医療問題を再認識できました。高齢化の進展に伴う医療・介護需要の増大、医師をはじめとする人的・物的資源の不足・偏在、救急医療や産科小児科医療不足などです。南泉州地域の公立病院も住民サービスの一環として診療機能を提供していますが、限られた医療資源のもとでは、この体制を維持していくことには限界があるため、地域資源を効率的に活用しながら、相互の機能分担によって地域医療のネットワーク化を実現しなければなりません。自院の強みを生かし弱みを地域の機能でカバーし合い住民の医療を守れるよう、地域全体で考えなければならないと思います。

市立貝塚病院は、「がん診療を中心とした急性期病院を目指し、検診からターミナルケアまで一貫したがん診療を提供する」という機能を全うできるよう、今年度念願の緩和ケア病棟をオープンし本広報誌の特集と致しました。医療の専門分化が進むほどに日常生活が見過ごされがちになっています。私たち看護師には生活の営みを整えるという役割があります。2人に1人ががんになる時代、がんと共に生きる生活者として患者様を捉え看護できるよう、精励努力してまいります。

■消防長から感謝状が贈呈されました

7月29日、当院整形外科勤務の看護師 西野恵さんに、岸和田市消防本部消防長から感謝状が贈呈されました。西野さんは今年3月、岸和田中央体育館でバレーボールの練習中に意識不明となった60代の男性に対し、消防隊が到着するまでの間、その場に居合わせた数名の仲間とAEDを使用して心肺蘇生を継続し、救急隊との連携により男性の命を救いました。



(写真中央：西野恵 看護師)

■『第19回病院祭』の開催日が11月15日(日)に決定

病院祭は、市民に親しまれ信頼される病院づくりを目標に平成4年にスタートし、今日まで多くの市民や患者さんとともに開催してきました。隔年で「大病院祭」「ミニ病院祭」を開催しており、今回は「大病院祭」の年にあたります。ロータリー前では「模擬店」や「もちつき」、院内では「ロビーコンサート」「講演会」「検診コーナー」等のイベントを一日盛大にいたしますので、皆さまどうぞお気軽に病院祭にお越しください。



■第51回 市立貝塚病院 市民公開講座

【テーマ】「肺炎の予防」

【日時】11月16日(月) 13:30～15:00

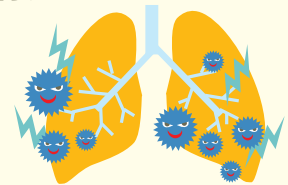
【講師】顧問 松井 薫 / 感染管理認定看護師 水本 雄二

【場所】市立貝塚病院 7階講義室

【費用】無料(定員70名 要予約)

【申込・問い合わせ】市立貝塚病院 地域医療連携室 ☎072-422-5865 (内線:236)

※1階総合案内でも受け付けております。



平成27年
11月16日
(月)

地域連携ニュース

■第5回 こすもす懇話会のご報告

平成27年6月6日(土) スターゲイトホテル関西エアポートにて「第5回こすもす懇話会」を開催しました。「こすもす懇話会」は、地域の先生方との連携を深めるため、平成23年より毎年初夏に開催しています。

今回は、吉原治正院長による「C型肝炎の最新治療と地域医療連携」、山田幸則副院長による「貝塚病院におけるHBV活性化H.pylori感染対策の取り組み」の講演を通じ、地域の先生方の質問を頂くなど、活発なディスカッションができました。講演会終了後は、地域の先生方との連携を図り顔の見える場として、情報交換会を開催しました。



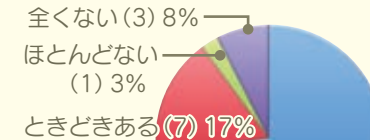
■「地域医療連携に関するアンケート」結果報告

地域医療連携をより円滑にし活性化するため、アンケート調査を実施しました。

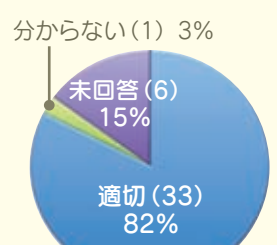
実施時期：2015年6月1日～6月19日
対象：貝塚市内医療機関
配布枚数：56枚 回収枚数：40枚

アンケート結果からの抜粋

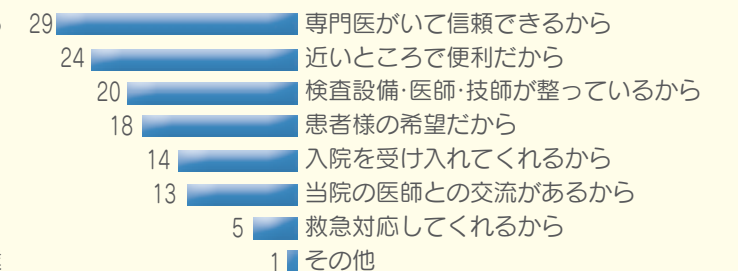
●当院に患者様をご紹介していただいたことがありますか。



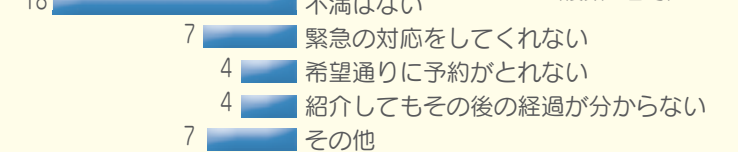
●医療内容について



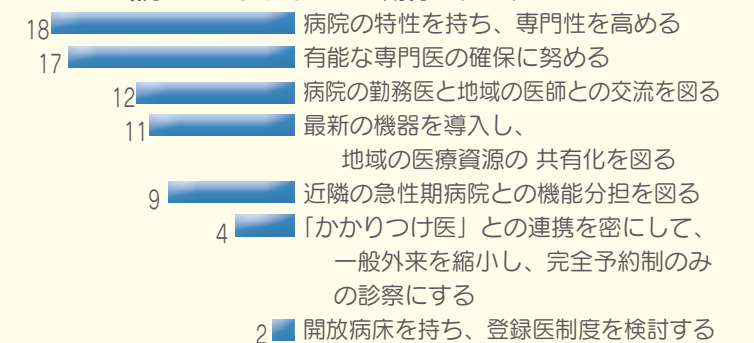
●ご紹介いただいた理由はなんですか？(複数回答可)



●紹介に際してどのような点にご不満をお持ちでしょうか。(複数回答可)



●今後、地域医療連携を推進するにあたって当院にどのようなことを期待されますか？(複数回答可)



紹介いただいた時の当院の対応については、
・返事について「必ず送られてくる」74%
・報告書の内容について「適切」81%
・医療内容について「適切」82%
・患者様の当院の評判「良い」38%・「普通」45%
・逆紹介について「満足・まあまあ満足」80%
のように、概ね良好な評価をいただくことができました。しかし、返事について「送られてくるのが遅い・送られてこない」という回答も7件あり、「紹介してもその後の経過が分からない」という回答が4件あるなど、返事の迅速さや情報の伝達などの課題もありました。

その他ご意見やご希望では、「待ち時間短縮の工夫」「民間の医療機関では対応の難しい高度先進医療への期待」「常勤医師の確保」などがありました。

待ち時間短縮につきましては、26年9月より【かかりつけ医等からの予約患者様受付】を設置し、よりスムーズなご案内に努めています。

高度な医療につきましては、ご期待に添えるよう今後も積極的に取り組み、診療内容の告知に努めたいと思います。また、「予約が可能かの返事をできるだけ迅速に」というご意見もありました。

今回いただいたご意見を真摯に受け止め、今後の地域医療連携に活用させていただきます。ご協力ありがとうございました。今後ともよろしくお願い申し上げます。